

試験研究(事前)評価整理表

部 会 名 農業部会
主 務 課 農業振興課

No.	施策目標	研究課題名	試験研究機関名	試験研究期間		予算額 全体予算 (千円)	具体的評価項目				1次評価	部局コメント	最終評価	外部評価委員からの意見等
				始期	終期		研究 ニーズ の妥当 性	研究計 画の妥 当性	研究目 的の妥 当性	施策目 標との 関連性				
1	2 農林水産業の生産力を強化するための、先端技術を活用した技術開発等の推進 5 安全・安心な県産農林水産物の安定供給と生産者の所得向上のための試験研究の推進 (重点試験研究テーマ2、3)	人口減少社会に対応する超省力・軽労化技術の開発	農業総合センター	R8	R12	189,200	A	A	A	A	A	本研究課題は、各評価項目において高い妥当性を有し、施策や地域課題の解決に資するものである。	A	・JA部会等の意見を参考とした課題の抽出や、大学等との連携により、IT技術を付加した技術・手法の創出に尽力されたい。
2	2 農林水産業の生産力を強化するための、先端技術を活用した技術開発等の推進 5 安全・安心な県産農林水産物の安定供給と生産者の所得向上のための試験研究の推進 (重点試験研究テーマ2、3)	中山間地域等での農業DX技術等導入による農業生産基盤の確立	農業総合センター	R8	R12	49,130	A	A	A	A	A	本研究により、中山間地域等の条件不利地においても収益力の向上が見込まれ、農業生産活動の維持・発展に寄与できる。	A	・立地条件(平地からの近さ)によって環境等が大きく変わるため、細分化して考えるべきではないか。
3	2 農林水産業の生産力を強化するための、先端技術を活用した技術開発等の推進 5 安全・安心な県産農林水産物の安定供給と生産者の所得向上のための試験研究の推進 (重点試験研究テーマ2、3、4、7)	食料安全保障に向けた安定生産技術の研究開発	農業総合センター	R8	R12	68,155	A	A	A	A	A	産地や経営体の維持・発展に寄与するだけでなく、食料安全保障にも対応しており、積極的に実施すべきである。	A	・効果的な暑熱対策技術の確立を望む。 ・短期肥育により経営の効率化を図ることができるが、品質の有意差が創出できないことや国内における消費動向が良食味の赤身や脂質の口どけを重視していることを踏まえると、短期肥育はやや相反しているのではないか。 ・「革新的な栽培技術体系による省力・高品質生産技術体系の確立」について広範囲に周知し、普及を図っていくべき。

No.	施策目標	研究課題名	試験研究機関名	試験研究期間		予算額 全体予算 (千円)	具体的評価項目				1次評価	部局コメント	最終評価	外部評価委員からの意見等
				始期	終期		研究ニーズの妥当性	研究計画の妥当性	研究目的の妥当性	施策目標との関連性				
4	2 農林水産業の生産力を強化するための、先端技術を活用した技術開発等の推進 5 安全・安心な県産農林水産物の安定供給と生産者の所得向上のための試験研究の推進 (重点試験研究テーマ3、7)	多様な担い手や地域の農業活動を支える技術の開発	農業総合センター	R8	R12	153,220	A	A	A	A	A	研究ニーズが高く、安定的に農業生産を継続するためには、解決必須な課題であり、積極的に実施すべきである。	A	・本県では鳥害対策が進んでいないと感じる。
5	3 県産農林水産物の競争力を強化するための、「ふくしま」ならではの価値向上に資する品種開発等の推進 5 安全・安心な県産農林水産物の安定供給と生産者の所得向上のための試験研究の推進 (重点試験研究テーマ4、5)	「もうかる」農業を実現するオリジナル品種・系統と生産技術等の開発	農業総合センター	R8	R12	455,225	A	A	A	A	A	産地間競争に勝ち残るために必要な研究であり、積極的に実施すべきである。	A	・市場ニーズのある品種を適時供給できるよう、スピード感を持った育種・デビューをお願いしたい。 ・農研機構育成品種などの様々な品種について、JA等と連携し本県における適応性等を早期に調査してほしい。
6	3 県産農林水産物の競争力を強化するための、「ふくしま」ならではの価値向上に資する品種開発等の推進 5 安全・安心な県産農林水産物の安定供給と生産者の所得向上のための試験研究の推進 (重点試験研究テーマ4、5)	「ふくしま」ならではのブランド力の強化に資する技術の開発	農業総合センター	R8	R12	192,875	A	A	A	A	A	県産農産物の生産力とブランド力を向上し、競争力の強化を図るとともに、農畜産物の機能性を含めた差別化、高付加価値化に向けた取組を進めるべきである。	A	・種雄牛造成にあつては、多くの情報を活用の上、従来の脂肪交雑に特化した考えに偏重せず、育種牛を中心とした系統造成や共進会出品暦を考慮する等、ストーリー性をもった造成を行うことが必要。 ・農産物の輸出に力を入れるにあたり、国、輸出先のニーズに合致しているかを調査することが必要。国内出荷の場合と同様の栽培でよいか(例: 検疫等)懸念される。

No.	施策目標	研究課題名	試験研究機関名	試験研究期間		予算額 全体予算 (千円)	具体的評価項目				1次評価	部局コメント	最終評価	外部評価委員からの意見等
				始期	終期		研究ニーズの妥当性	研究計画の妥当性	研究目的の妥当性	施策目標との関連性				
7	4 地球温暖化等の気候変動に対応し、環境と共生する農林水産業を進めるための技術開発等の推進 5 安全・安心な県産農林水産物の安定供給と生産者の所得向上のための試験研究の推進 (重点試験研究テーマ6、7)	温暖化・異常気象等の気候変動に対応する技術の開発	農業総合センター	R8	R12	129,705	A	A	A	A	A	近年、気候変動の影響により、農産物の収量や品質の低下が問題となっていることから、喫緊の課題として積極的に実施すべきである。	A	・高温下で作業を行う生産者の負担を減らす技術開発も望まれる。
8	4 地球温暖化等の気候変動に対応し、環境と共生する農林水産業を進めるための技術開発等の推進 5 安全・安心な県産農林水産物の安定供給と生産者の所得向上のための試験研究の推進 (重点試験研究テーマ6、7)	みどりの食料システム戦略」に基づく持続的な農業生産技術の開発	農業総合センター	R8	R12	234,510	A	A	A	A	A	本県における持続的農業の実現のため、環境と共生する農業の推進は喫緊の課題であることから、研究ニーズは高く積極的に実施すべきである。	A	・GAP認証取得農家を全生産者50%強まで増やすこと、持続可能な農業の実現につなげるべきではないか。

試験研究(事前)評価整理表

部 会 名 林業部会

主 務 課 森林計画課

No.	施策目標	研究課題名	試験研究機関名	試験研究期間		予算額 全体予算 (千円)	具体的評価項目				1次評価	部局コメント	最終評価	外部評価委員からの意見等
				始期	終期		研究 ニーズ の妥当 性	研究計 画の妥 当性	研究目 的の妥 当性	施策目 標との 関連性				
1	東日本大震災・原子力災害からの復興の加速化による農林水産業の再生を支援するための試験研究の推進	コナラへの放射性セシウム移行低減技術の検討	林業研究センター	R8	R12	20,000	A	A	A	A	A	広葉樹林再生事業後のコナラのきのこ原木への利用は重要な課題であり、積極的に実施すべきである。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・カリ施用による放射性セシウムの移行低減効果だけでなく、落葉を經由して土壌表層に堆積する有機物層に存在するセシウム量や表層鉍質土壌中のセシウム量の評価も不可欠。 ・重要な課題である。カリ施用だけでなく、窒素やリンの施用効果も検討するなど、着目する物質や対象をもう少し広げてはどうか。 ・実用時のコスト意識を強く持つこと、きのこ菌床への利用も検討するようお願いしたい。
2	東日本大震災・原子力災害からの復興の加速化による農林水産業の再生を支援するための試験研究の推進	コナラへの放射性セシウム移行要因に基づくきのこ原木林選定手法の検討	林業研究センター	R8	R12	35,000	A	A	A	A	A	きのこ原木生産再開は重要な課題であり、積極的に実施すべきである。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・土壌の含水率や可給態N・P、樹木の葉のN・P・Cs・K等、地形によってその成分量や組成が変化することが知られている。プロセスやメカニズムの理解にもつながり、より説得力がある知見が得られると思料されるので樹木成長や萌芽更新を支える物質にも着目すること検討願う。 ・重要な課題である。原木利用と菌床利用に区別できる選定方法について検討願う。
3	東日本大震災・原子力災害からの復興の加速化による農林水産業の再生を支援するための試験研究の推進	帰還困難区域等高線量地域を含む森林の整備に資する森林資源利用システムの開発と実証	林業研究センター	R8	R12	97,300	A	A	A	A	A	高線量地域を含む森林の利用や整備は喫緊の課題であり、積極的に実施すべきである。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・事業内容に具体性が欠けており、全体像が見えにくい。研究担当者を配置してアイデア出し・進捗確認・調査や解析への参画を見える形できちんと行っていくことが必要。 ・極めて重要な課題である。建築用材、燃料材等、バークについても燃料材等に区分して検討するとともに、これらの各々の流通について県行政、業界団体と協議しつつ実行性のある成果をとりまとめてほしい。 ・成果は空間線量率や森林資源情報把握による森林整備に止まらず、時間情報や高線量地域内の木材の放射性物質濃度との関係等も把握し、安全・安心な森林(木材)利用に繋がる内容として欲しい。
4	安全・安心な農林水産物の安定供給と生産者の所得向上のための試験研究の推進	県産広葉樹材の材質・加工特性および利用技術の検討	林業研究センター	R8	R12	5,300	A	A	A	A	A	県産広葉樹の高付加価値化、資源の有効活用、ならびに森林の健全な管理の推進に寄与することが期待されるため早急の実施する必要がある。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・本研究課題で新たに得られる知見がどういったものか、またこれが高付加価値化にどのように活かされるものなのか、この点をより明確化して研究を進めていただきたい。 ・普及活動推進方策も並行して検討されたい。

試験研究(事前)評価整理表

部 会 名 水産部会
主 務 課 水産課

No.	施策目標	研究課題名	試験研究機関名	試験研究期間		予算額 全体予算 (千円)	具体的評価項目				1次評価	部局コメント	最終評価	外部評価委員からの意見等
				始期	終期		研究ニーズの妥当性	研究計画の妥当性	研究目的の妥当性	施策目標との関連性				
1	安全・安心な県産農林水産物の安定供給と生産者の所得向上のための試験研究の推進	シラス漁況予測技術の開発	水産海洋研究センター	R8	R12	525	A	A	A	A	A	シラスは本県沿岸漁業において重要魚種であり、本研究により操業支援につながることを期待されるため実施すべきである。	A	・近年、シラス漁業の重要性は増している一方で、海況等により漁況が変動しやすく、漁業者からの漁況予測へのニーズは高い。ICTや予測モデル、衛星データ等を活用し、精度の高い漁況予測技術の開発を目指す本研究は、計画的な操業支援に資する成果が期待される。
2	地球温暖化等の気候変動に対応し、環境と共生する農林水産業を進めるための技術開発等の推進	栽培漁業対象種の放流技術に関する研究	水産資源研究所	R8	R12	2,670	A	A	A	A	A	漁業者の要望を踏まえた研究課題であり、ヒラメ等栽培漁業対象種の種苗生産・放流の安定化による、本県水産業の振興が期待できることから実施すべきである。	A	・高水温対策や防疫対策に取り組む本研究は、栽培漁業の安定化に資するものとして意義は大きいと考えられる。
3	安全・安心な県産農林水産物の安定供給と生産者の所得向上のための試験研究の推進	松川浦の増養殖の安定化に関する研究	水産資源研究所	R8	R12	500	A	A	A	A	A	漁業者の要望を踏まえた研究課題であり、生産性を評価し、向上させる技術開発が期待できる。本格操業に向けた必要な研究であり、実施すべきである。	A	・漁場環境の把握や養殖技術の改良等に取り組む本研究は、地域の水産業や、関係する観光業の振興にも寄与するものとして成果が期待される。

No.	施策目標	研究課題名	試験研究機関名	試験研究期間		予算額 全体予算 (千円)	具体的評価項目				1次評価	部局コメント	最終評価	外部評価委員からの意見等
				始期	終期		研究ニーズの妥当性	研究計画の妥当性	研究目的の妥当性	施策目標との関連性				
4	安全・安心な県産農林水産物の安定供給と生産者の所得向上のための試験研究の推進	高品質魚作出保存技術の開発	内水面水産試験場	R8	R12	15,350	A	A	A	A	A	養殖業者や内水面漁協等からのニーズがあり、当該課題に取り組むことで県内中山間地域における内水面養殖業の振興が期待される。	A	・バイテク技術による高付加価値魚の作出、代替餌料による低コスト化等を目指す本研究は、内水面養殖業の振興に寄与する取組として有用である。
5	安全・安心な県産農林水産物の安定供給と生産者の所得向上のための試験研究の推進	内水面重要水産資源の増殖技術の開発	内水面水産試験場	R8	R12	930	A	A	A	A	A	内水面重要水産資源の増殖推進による遊漁者の増加により、喫緊の課題である漁協経営の改善が期待されるため、実施すべきである。	A	・漁場環境や天然資源にも配慮した増殖事業の推進を目指す本研究は、内水面水産資源の持続的利用に資するものとして意義があると考えられる。